

住

熊日がお届けする県内住宅最新情報

KUMAMOTO
HOME&LIFESTYLE
MAGAZINE

2021-2022

Style Book

これだけは知っておきたい!

住宅資金の基礎知識

マイホームに入居するまでの
流れをまとめました

家づくり百科

こんな家で過ごしたい。

PICK UP!

熊本の住まいを拝見

熊日が厳選する県内住宅会社23社

- 自分スタイルの家づくり
- 平屋で快適暮らし
- 自然素材の住まい
- インテリアと暮らす
- 熊本リノベ & リフォーム最前線

発行／熊本日日新聞社



住 Style Book 2021-2022 CONTENTS

5	column それぞれの衣・食・住 「グアテマラの珈琲豆と珈琲ミル」 文＝田中まゆみ
8	特集 新生活様式に対応したサービスが次々登場 どう変化? 家づくりの情報収集
12	TOPICS ミーレショップ熊本 世界中で Miele が選ばれる理由
16	自分スタイルの家づくり in 熊本
18	■ アイ・ウッド
22	■ アイ工務店
26	■ エバーフィールド
30	■ サイエンスホーム熊本店
34	■ Zero Design
38	■ 優渾
42	■ 一栄工務店
44	■ 七呂建設
46	■ 東宝ホーム
48	■ 豊工務店
50	■ REGOLITH ARCHITECT
54	TOPICS FHS 遠赤外線温水床暖房「ユカカラ暖房」の魅力に迫る
56	TOPICS 宇佐美・工業 地盤改良とエクステリアで 快適で安心な暮らしを支える
60	これだけは知っておきたい! 特集 住宅資金の基礎知識 2021年度版
007	



66	平屋で快適暮らし
68	■ アーキハウス
72	■ 積水ハウス
76	熊本日日新聞から読み取る 住宅関連ニュース
77	編集部おすすめ! 住まいのお役立ちBook guide
78	新しい家での生活をスムーズに始めるために 特集 引っ越しガイド
82	自然素材の住まい
84	■ 出田建築工房
88	■ 新産住拓
92	■ 住友林業
94	■ エコワークス
102	インテリアと暮らす
104	■ 大海建設
108	TOPICS 808戸の仮設住宅ができるまで
112	人を招きたくなる家
114	■ セキスイハイム九州
120	熊本リノベ & リフォーム最前線
122	■ リホーム熊本
128	特集 保存版 家づくり百科
136	紹介した住宅会社の資料請求 & 読者プレゼント

2020年7月、梅雨前線の影響により豪雨被害に見舞われた県南地域。復興に向けた活動が進む中、熊本県が整備した仮設住宅が次々に完成しました。官民の連携により、迅速な建設が実現した復興住宅についてレポートします。

熊本豪雨

官民連携でスピーディーな建設が実現 808戸の仮設住宅ができるまで



2020年10月7日に完成した球磨村グラウンド仮設団地

熊本県を中心に、九州や中部地方など全国各地に被害をおよぼした2020年7月の豪雨。県内では河川の氾濫や土砂崩れが発生し、中でも県南は球磨川の氾濫により、河川沿いの市町村が甚大な被害を受けた。

熊本県は住む家をなくした被災者のため、7市町村に緊急仮設住宅を24団地808戸整備。被災者の入居が進んでいます。

「仮設住宅の建設に着手したのは水害が発生してすぐの7月初旬。最初の住宅が完成するまでに要したのはわずか50日でした」と話すのは、住宅会社「エバーフィールド」（熊本市南区）の久原英司社長。同社は仮設住宅建設を担当した住宅会社の一社です。

これだけスピーディーに対応できた理由を「熊本地

震の際、県と多くの住宅会社や住宅関連団体が一体となって緊急仮設住宅の建設に取り組んできたことが生かされた結果」と久原社長は分析します。

熊本地震の仮設住宅建設では、建てて終わりではなく、完成後も県と住宅会社などが改善点について話し合いを続けてきました。そんな官民連携の経験が今回の熊本水害における仮設住宅の建設に役立っているのです。

「災害時は、被災者のみなさんが1日でも早く安心して過ごせる家を提供することが求められます。熊本県が経験した仮設住宅づくりのノウハウは、もし他の地域で災害が発生した際にもきつと役に立つはずです」と久原社長は力強く語ってくれました。



1 民家などが甚大な被害を受けた球磨村渡地区。がれきや流木、横転した車が水害のすさまじさを語ります 2 人吉市内の国宝・青井阿蘇神社は、拝殿が床上浸水し、楼門も冠水しました。境内には災害ごみが積まれていました 3 芦北町社会教育センター周辺も大規模な浸水被害を受けました。隣接する図書館の蔵書のほとんどが廃棄処分に 4 球磨村の約120人が避難した人吉市の人吉一中体育館。避難者は新型コロナウイルス対策にも注意が必要でした

※写真はすべて2020年7月12日付の熊本日日新聞より

INTERVIEW

「一番に考えたのは被災者の健康。不安を解消するための快適さを追求」

エバーフィールド 代表取締役社長

久原 英司さん



5 木目の外壁や瓦葺きの屋根が目を引き応急仮設住宅 6 床や外壁の木材には県産スギが使用されています 7 明るい雰囲気で大々としたキッチン

「熊本豪雨の応急仮設住宅を建てるのが決まった時、私たちが最も重要視したのは、被災者の皆さんの健康でした」と久原社長。今回の水害で被害の大きかった人吉球磨地方は冬場に気温が低くなる地域が多いため、まずは断熱性能の高い家づくりを注いだそうです。

今回、同社が手がけた仮設住宅は、壁断熱はもちろん、屋根断熱まで備えていて、結果として高断熱とされるZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の基準を上回る断熱性能になっているそうです。

建材に県産のスギ、ヒノキをふんだんに使用した木造軸組構法で、室内に入ると、やさしい木の香りに癒されます。また、窓ガラスには断熱性、遮熱性に優れたLOW-Eガラスを採用。そのほか、屋根裏収納や屋内洗濯機置き場を確保するなど、快適さを重視したつくりになっています。

中でも注目したいのが、屋根瓦。県内の応急仮設住宅では瓦を採用したのは初

めの試み。その理由を久原社長に尋ねると「一番は雨音の軽減。被災者の皆さんにとって、水害をイメージさせる雨音を少しでも小さくするためには瓦が適していたからです」と話します。

使われているのは島根県石見地方で生まれ、400年を超える歴史を持つ石州瓦。台風や地震、塩害、凍害に強く、耐久性に優れた瓦として知られています。「性能の高さに加え、石州瓦を使用する決め手になったのは豊富な供給量でした」と久原社長。今回、石州瓦から供給された瓦の枚数は約35万枚。おかげで何百棟におよぶ住宅の建設が実現できたそうです。

久原社長は「この応急仮設住宅に入居される方が少しでも安心して暮らせるようになればと願いながら、住宅づくりを進めました」と話してくれました。



木の香りが漂う室内。和の雰囲気に心とみず

和風にも洋風にも対応
ヨーロッパ発の瓦スタイル

平板瓦 (石州F形)

熊本の気候風土に適した
伝統建築に欠かせない瓦

和瓦 (石州J形)

名品は永遠
石州瓦工業組合

石州瓦に関する
問い合わせ

屋根の学校

島根県江津市嘉久志町イ405 ☎0855-52-5605 FAX 0855-52-0766

洋瓦 (石州S形)

近代的な都市型洋風住宅に最適
モダンで豊富なカラーが魅力